



平成20年 第2回 対馬市議会 定例会

平成20年度対馬市一般会計補正予算、 対馬市行政機構の改革案等、15議案を可決

平成20年第2回対馬市議会定例会が、6月23日から11日間の会期で開かれ、一般会計補正予算、条例改正案など15件の議案が原案どおり承認、可決されました。

可決された議案のうち、主なものは次のとおりです。

平成20年度対馬市一般会計補正予算(第2号)

歳入歳出総額にそれぞれ5億3千630万円を追加し、予算総額を歳入歳出それぞれ281億1千730万円にする。

主なものではCATV施設整備事業で1億5千万円、漁協施設等整備事業補助金として9千57万9千円、しいたけ大型生産団地導入支援事業補助金として3千727万1千円の増加。

対馬市行政機構の改革に伴う関係条例の整備に関する条例について

対馬市部設置条例の一部を改正し、地域再生推進本部、観光物産推進本部、総務企画部、市民生活部、福祉保健部、農林水産部、建設部、水道部を設置。また、対馬市支所及び出張所設置条例の一部を改正し、支所を地域活性化センターに改めた。

対馬市企業誘致に関する条例の一部を改正する条例について

市内に事業所等を新設又は増設する企業に対する奨励措置の見直し。

対馬市教育委員会委員の任命について

6月30日付で辞任した2名

の委員に代わり、新委員が承認されました。(敬称略)

扇 武一(63)

【住所】上県町鹿見79番地
任期：平成20年7月1日～
平成21年4月30日

阿比留 徳生(60)

【住所】峰町吉田1028番地
任期：平成20年7月1日～
平成23年4月30日

対馬市福祉医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例について

老人医療制度から後期高齢者医療制度へ移行したことに
よる改正。

対馬市港湾施設管理条例の制定について

施設名を峰港湾保管施設に、
位置を峰町志多賀字鹿ノ浦7
48番2外に定め、施設使用
料等を決定。

対馬市監査委員の選任について

6月30日付で辞任した委員
に代わり、新委員が承認され
ました。(敬称略)

吉見 優子(66)

【住所】厳原町久田道154
7番地
任期：平成20年7月30日～
平成21年5月31日

【市長行政報告】

議会開会にあたり対馬市長は行政報告を行い、3月の第1回定例会以降の主な事項について説明を行いました。主なものは次のとおりです。

市営バスの運行開始

対馬交通(株)が運行していた豊玉町仁位地区から廻地区及び仁位地区から浦底を経由し、上対馬町小鹿に至る2路線の廃止を受けて、代替交通手段として市が所有するスクールバスを活用し、6月1日から運行を開始。

対馬市民球団・対馬まさかりドリームス」事業の終了

財政運営の厳しさが増す中、事業の評価を行った結果、事業の終了を決定。

対馬市ケーブルテレビの事業経過

事業の進捗率は約52%。今年度は豊玉町及び峰町の一部と、上県町及び上対馬町の地域で各世帯までの引き込み工事を実施し、来年4月に地上波デジタル放送が視聴できるよう整備を進めている。

また、ケーブルテレビ事業で構築した伝送路で携帯電話不感地域帯の解消や独居老人の見守りシステムへの対応等、効率的に活用できるシステムが実施できるよう検討する。

企業誘致関連

昨年、対馬市で人員募集に協力した直方市の「株式会社メイホー」では、1名が採用され、対馬工場開設に向けた取り組みが行われている。

またゴルフ場関連での進出に関し、(株)ユニマツトリパティと協議の結果「関係機関との協議が整った折には、(峰町佐賀の市有地に)正式に調査、測量に着手し、平成25年の開場を目指したい」との意向。

(株)対馬物産開発の閉鎖

昭和60年に第3セクターとして設立された(株)対馬物産開発は、主力商品のヒジキ価格の高騰などで、4期連続単年度赤字決算。19年度末繰越欠損額2億4千313万4千円、債務超過額1億4千300万円だった。市長就任後、3回の取締役会に出席し協議した結果、6月7日の第45回役員会で会社存続の断念を決定。破産手続きを行っている。

行政機構の改編を行います。

支所を

地域活性化センターと改称
活性化の拠点として地域づくりを行います。

8月1日
実施

主な変更点は次のとおりです。

【新たに設置した部署】

地域再生推進本部

市民と一緒にその時々

策課題を解決していく部署で

す。当面、「地域マネージャ

ーの取り組み」「企業誘致」

「地域交通政策」「行政改革」

などに取り組みます。

観光物産推進本部

対馬の観光と物産を外に向

けて売り込んでいく部署です。

対馬観光物産協会と同じフロ

アで仕事をし、機動的な組織

とします。また、上対馬にも

事務所を設置します。

【組織の改編を行った部署】

総務企画部

地域再生推進本部及び観光

物産推進本部を設置したこと

に伴い、総務部・政策部・観

光商工部の仕事を総務企画部

にまとめます。

福祉保健部

福祉部と保健部の連携を取

るため部を統合し、課の改編

を行います。健康推進課と保

険課を、介護保険・後期高齢

者医療・地域包括支援の仕事

をする長寿支援課と、国民健

康保険・健康診断等の仕事を

する健康保健課とします。

農林水産部・建設部

漁港漁場を整備する仕事を

建設部から農林水産部に移し、

農林関係の整備を行う仕事と

ともに基盤整備課とします。

【窓口の変更となる業務】

パスポートの申請

総務課 市民課

犬の登録・注射

市民課 環境衛生課（現

廃棄物対策課）

【地域活性化センター】

市民と一緒に地域を活性化

させる拠点として、地域づく

りの調整役といった仕事を担

います。

今後、予算や権限を移し、

地域の特性を活かした地域づ

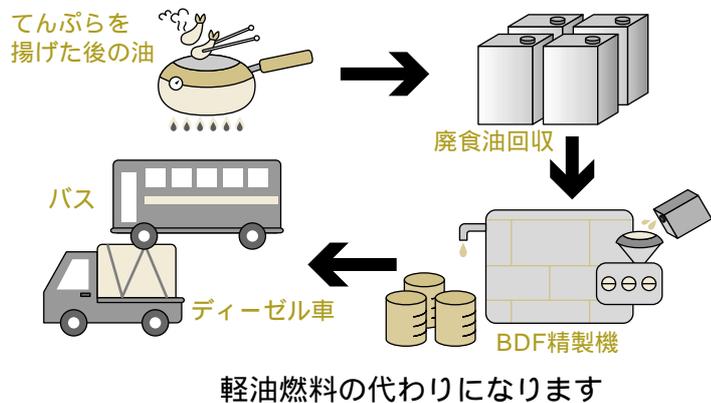
くりを行います。

組織図など詳細につきまし

ては、次号でお知らせします。

家庭からの廃棄物を
エネルギーとして再利用

厳原町小浦地区で
住民主体の廃食用油回収活動がスタートしました。



廃食用油
リサイクルイメージ

軽油燃料の代わりになります

対馬の自然環境を守り、家
庭から出る廃棄物をエネルギ
ーとして有効活用しようと、
厳原町小浦地区では有村一實
区長の呼びかけで、区内約3
00戸を対象に、廃食用油の
回収を5月末から始めました。
回収している油は、家庭で
使用し古くなった天ぷら油等
の植物油です。各家庭では不
要になった使用済み油を、地
区内のレストラン施設内に備

え付けられた回収容器に持ち
込みます。その後、市内のリ
サイクル業者が定期的に油を
回収し、バイオディーゼル燃
料として市内で精製したのち
ディーゼル車の軽油代替燃料
として再利用されています。
この食用油のリサイクルで、
各家庭ではこれまで頭を悩ま
せてきた廃食用油の処理が容
易になり、また、エネルギー
として再利用することで地球

環境の保全や対馬の美しい自
然の保護にもつながっていく
ことでしょう。
同様の活動は、対馬市食生
活改善推進協議会厳原支部で
も計画されていて、回収活動
での注意点を明確にしようと
5月19日に美津島町のリサイ
クル施設の視察を行いました。
このように、地域循環型工
ネルギーの有効活用の機運が
市民の間で高まっています。



リサイクル施設で説明を受ける食生活改善
推進協議会厳原支部の皆さん。
同会による回収作業は、7月から開始の予
定です。



小浦地区で使用されている
油回収容器
各家庭からの廃食用油が集
められます

約2,000人がウォーキングなどを楽しむ

あじさい祭り

今年で6回目を迎える恒例のあじさい祭が6月8日に開催され、会場の上県町佐護の湊浜シーランドステージに約2,000人の参加者が集まりました。

往復5kmに及ぶあじさいロードで実施されたウォーキングには約250名が参加して、沿道に咲く色とりどりのあじさいを楽しみながら、心地よい汗を流していました。

メイン会場では、対州馬の乗馬体験をはじめ、上対馬高校プラスバンド部の演奏や保育園児のお遊戯、コーラの早飲み大会などが催され、また、未公開の場所を見学できるヤマネコセンター・棹崎灯台ツアーなどもあり、参加者は楽しい一日を過ごしていました。



あじさいロードでウォーキングを楽しむ参加者



山頂から離陸するパラグライダー

今年は順調にフライト

パラグライディング対馬大会

上県町佐護の風光明媚な千俵山の山頂（標高約280m）から大空に舞い上がり、約1.5km離れたポイントへの着陸の正確さを競う第6回パラグライディング対馬大会が、6月7日、8日の2日間開催されました。

大会には、県内や大分からの愛好者35名に加え、韓国からも12名が参加しました。天候に恵まれずフライトできなかった昨年の大会とは対照的に、コンディションに恵まれた今大会では、赤、青、黄色といった機体を装着した選手たちが次々に山頂から離陸し、大空に大輪の花を咲かせました。また、競技の間には一般客を対象に体験飛行も実施され、10数名がパラグライダーに搭乗して、ひとときの空中散歩を楽しんでいました。

お茶のお礼に、市長が紙芝居を上演

対馬弁とカップの声まねに園児が大喜び

6月12日、市長が上対馬町の比田勝保育所と泉保育所を訪問し、園児たちに紙芝居を上演しました。これは5月3日に開催されたひとつばたご祭りで、市長に同園の園児たちがお茶を振る舞ったことがきっかけで、そのお礼に実施されたものです。

紙芝居は、川の汚染ですみかを追われたカップの三吉たちに心を痛めた大吉おっさまたち人間が、昔のような豊かな自然環境を取り戻そうと、地域ぐるみで川の浄化に取り組むという物語で、ストーリーも絵も市民手作りによるものです。全編対馬の方言が使われています。内容が園児たちにとっては少し難しかったようですが、市長の話すおっさまの対馬弁と甲高い声のカップの声まねに園児たちは笑い、楽しそうに紙芝居を見ていました。



比田勝保育所



泉保育所

ツシマヤマネコの飼育下繁殖に取り組んでいる神奈川県横浜市のよこはま動物園ズーラシアが、ツシマヤマネコの保護活動支援のため、生息状況調査用の自動撮影カメラ4セットを対馬市へ、また動物治療用の酸素濃縮器1台をNPO法人どうぶつたちの病院へ寄贈しました。

ズーラシアは、災害や感染症などの発生による危険分散のため、平成18年11月からツシマヤマネコの飼育と繁殖に取り組んでいます。現在、オス2頭、メス2頭を飼育しており、うちメスの1頭は一般公開しています。

対馬市では、今回寄贈を受けたカメラを、昨年23年ぶりにヤマネコの生息が確認された厳原町内山の森林に設置して、下島での生息状況調査に活用する予定です。

6月10日に市役所で行われた贈呈式では、動物園の管理運営を行っている(財)横浜市緑の協会の橋本繁理事長から対馬市長へ、また、増井光子常務理事からNPO法人どうぶつたちの病院の山本英恵センター長へ、それぞれ目録が手渡されました。

ツシマヤマネコ保護活動を支援

よこはま動物園ズーラシアが、自動撮影用カメラと酸素濃縮器を寄贈



左から、橋本理事長・財部市長
増井理事・山本センター長
手前は自動撮影カメラと酸素濃縮器

「テロリストの入国は許しません」厳原港港湾危機管理コアメンバーが合同訓練を実施



船上でテロリスト役を補足する海上保安官

対馬海上保安部、対馬南警察署、福岡入国管理局対馬出張所、門司税関厳原税関支署など厳原港の危機管理を担当する7つの行政機関で組織する厳原港港湾危機管理コアメンバーによる合同テロ対応訓練が6月2日、厳原港で実施されました。

メンバー間の連携と対応状況を確認し、事件の対処能力の向上を図る目的で行われたもので、関係機関から53名が参加。厳原港港湾危機管理担当官(対馬海上保安部長)が、釜山港を出港した旅客船の船内にテロリストが乗船した可能性があるという内閣官房水際危機管理チームから通報を受けたという想定で訓練が実施され、関係機関への周知や緊急参集を求めるなどの情報伝達訓練、海上及び陸上での警戒配備訓練、不審者の船内検索及び制圧訓練が行われました。参加者はきびきびとした動作で訓練を行っていました。

瀬田・御嶽トンネルが貫通 供用開始は来年春を予定

6月16日、上県町の佐護地区と瀬田地区を結ぶ一般国道382号瀬田・御嶽トンネルの貫通式が開かれ、工事関係者や地元地権者など約60名が出席して貫通を祝いました。

今回貫通した瀬田トンネル(全長166m)と御嶽トンネル(全長1,200m)は、今年1月に着工され工事が進められてきました。

完成すると幅員が狭く急カーブが長く続く現在の路線と比較し、距離にして約1,600m、時間にして約5分短縮されます。これで通勤、通学時間の短縮をはじめ、輸送量の増強、交通の安全が図られるなど大きな効果が期待されます。今後、最終的な工事が行われ平成21年春には供用が開始される予定です。



貫通した全長1,200mの御嶽トンネル